

# 京都府戦略的地震防災対策推進部会の開催結果概要について

## 1 開催日時

令和2年4月8日（水） ～ 4月27日（月） （書面開催）

※新型コロナウイルスへの感染が拡大し、国内で緊急事態宣言が出されている状況を踏まえ、書面開催とした。

## 2 参加委員

牧部会長、明致委員、窪田委員、越山委員、松島委員

## 3 議事の概要

### （1）京都府戦略的地震防災対策指針について【資料2～4】

- ・新型コロナウイルス感染症対策への対応中に、地震が発生した場合の府の対応のあり方を検討すべきではないか。  
→（事務局回答）指針の上位計画である地域防災計画に定められた複合災害への対応をすることになる。また、今年度組織体制として、危機管理監が新型コロナウイルス感染症対応に、危機管理部長が自然災害対応に専従。
- ・「政策目標」「目標」「施策項目」が全体の取組を体系的に示すものであることに対し、「重点的取組」は、分野横断的に、重点施策として取り組むものという位置付けで良い。
- ・無電柱化は莫大な費用と時間がかかるため、道路寸断や停電への対策としての効果は限定的ではないか。 →（対応）資料2を修正
- ・中小企業による取組について、ESG（環境・社会・企業統治）のみでなく、CSR（企業の社会的責任）やSDGs（持続可能な開発目標）についても記載してはどうか。 →（対応）資料2・3を修正
- ・既存の消防団や自治会という組織への支援だけでなく、新たな業態や地域サービスによる防災活動への支援も行うべきではないか。 →（対応）資料6を修正

### （2）京都府戦略的地震防災対策推進プランについて【資料5～8】

- ・府が市町村・府民の取組を支援する間接的な事業については、より一層の支援施策の強化が求められることが分かる。

### （3）戦略指針・推進プランの進捗管理について【資料9～10】

- ・数値目標について、達成困難な単なる設定数値を置くのではなく、成果目標となりうる指標を設けるべきではないか。  
→（事務局回答）数値が毎年度変動する指標について、暫定的な目標でなく最終目標値を設定している。また、成果指標となる数値目標の設定が困難な事業について、アウトカム評価を定性的な観点から行うこととしている。
- ・進捗状況の評価は、目標に対する達成度合いだけでなく、目標が達成されていなくても防災減災に対してどれくらいの効果が上がっているのかが分かるようにできないか。  
→（事務局回答）数字に頼り過ぎず、定性的に評価・判断の根拠を示すこととしている。